

平戸、長崎、有馬にキリスト教が広まる

フランシスコ・ザビエルは、上陸した鹿児島から京（現在の京都）に向かった。その途中、平戸や山口で布教を行い、多くの信徒を獲得した。その後、ザビエルに続いて宣教師が次々と日本を訪れ、キリスト教を広めることとなった。

1550年、ポルトガル船が平戸に来航したのをきっかけに、南蛮貿易とも呼ばれる日本・ポルトガル間の貿易が始まった。長崎地方は日本における東アジア貿易の玄関口だったため、数多くのポルトガル船が入港するようになり、これらの船はしばしば積み荷とともにイエズス会の宣教師たちをもたらした。キリスト教は平戸、長崎、有馬のような貿易港から他の地域に広まっていったのである。

日本人たちは、まったく未知のものであった西洋文化に強い興味を示した。キリスト教の教理を学ぶにつれ、彼らの宗教についての理解も深まっていった。

（挿画：庄司好孝）